

「平成30年度 第4回【中部地区】点検ミニ講習会」を開催します ～点検支援技術を現場で試行～

静岡県道路メンテナンス会議は、道路施設の予防保全・老朽化対策の体制強化を図るため、平成26年度に設立され、道路橋等の点検計画策定や地域一括発注、点検ミニ講習会等に取り組んでいます。

今回、取り組みの一環として、下記のとおり静岡県道路メンテナンス会議の自治体職員を対象に、点検の実務を学ぶ「平成30年度 第4回点検ミニ講習会（橋梁）」を開催しますのでお知らせします。

1. 日時：平成31年2月5日（火）13：30～15：00

※天候の状況等により中止する場合があります。

中止の場合は静岡国道事務所ホームページにて発表致します。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukoku/>

2. 講習会の内容：点検支援技術（機械）の現場試行

平成25年度の道路法改正を受け、平成26年度より橋梁などの道路施設の近接目視を基本とした定期点検を実施しているところです。

一方で、平成30年度で定期点検サイクルが一巡することとなり、国土交通省では点検要領の見直しや、近接目視を補完・代替・充実する可能性のある、点検支援技術の開発に取り組んでいるところです。

この度、点検支援技術について、自治体職員に紹介し確認いただくものです。

場所：「国道1号 静清BP 興津高架内清見寺高架下」（【別図参照】）

現場試行予定技術：【別紙 点検支援技術の概要参照】

※静岡県、静岡市、他5市町より19名が参加予定

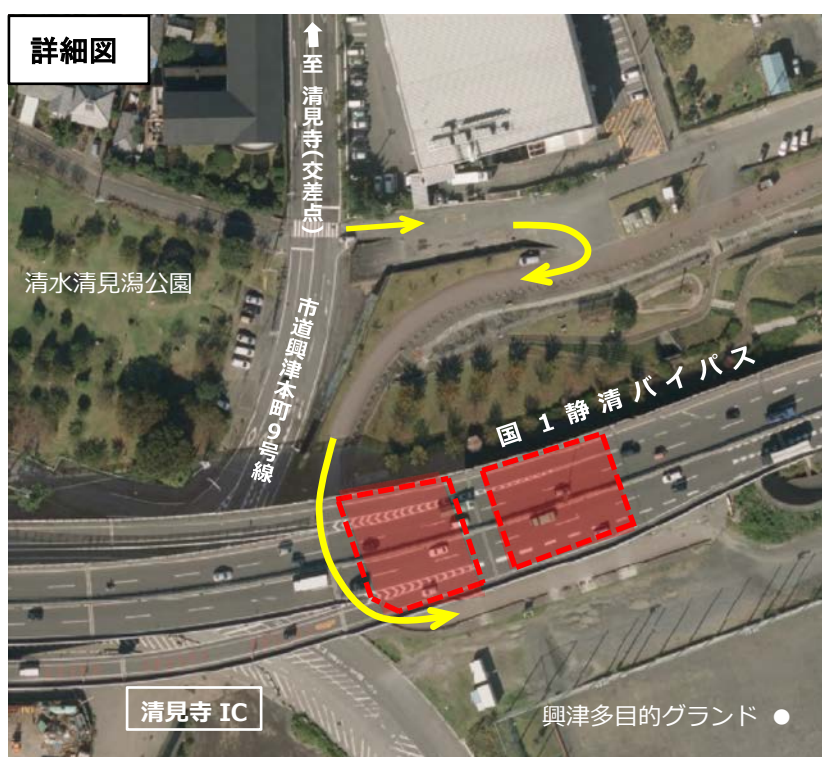
◆配布先

静岡県政記者クラブ、静岡市記者クラブ

◆問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 静岡国道事務所 副所長 やまだ ひろゆき 山田 裕行
総括保全対策官 おおた さとし 太田 聡

電話（054）250-8908 FAX（054）250-8911



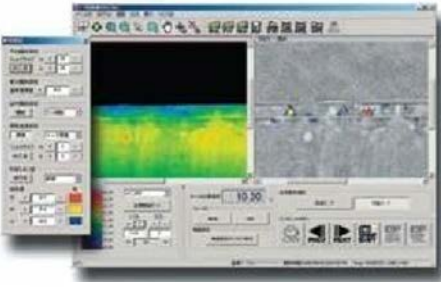
「静岡県道路メンテナンス会議」とは

静岡県内の全ての道路管理者が連携・協力し、道路メンテナンスを推進するため、平成26年度に設立され、点検の計画的な推進、自治体への支援等、様々な意見調整・情報共有を行い、継続的なメンテナンスサイクルの推進に取り組んでいます。

【構成員】 中部地方整備局（道路部、直轄事務所）、地方公共団体（静岡県、牧之原市他34市町）、中日本高速道路(株)、静岡県道路公社

点検支援技術の概要

技術名	①飛行系ロボット(ドローン)により構造物・損傷箇所を撮影する技術
技術概要	・取得した画像を合成しオルソ画像(正射投影画像)を作成することで、損傷位置の客観的な明示が可能 ・合成画像から損傷を抽出・判定し損傷図や点検調書作成の支援が可能
イメージ	  コンクリート構造物の点検

技術名	②赤外線法によりコンクリートのうき・剥離を非破壊で検出する技術
技術概要	・高性能赤外線カメラに調査支援モニターを設置することで、リアルタイムに調査結果の取得が可能 ・赤外線で撮影した画像を損傷判定支援ソフトで自動解析し変状を自動識別できるため、変状箇所の損傷状態の定量的な判定が可能 ・遠望非接触の非破壊検査のため、足場や交通規制が不要
イメージ	 据置型熱環境測定装置  赤外線画像の撮影状況  赤外線画像(左)と判定支援画像(右)  貼付型熱環境測定装置

技術名	③アーム型の機械でコンクリートのうき・剥離を非破壊で検出する技術
技術概要	・ハンマ・センサーが一体化した可搬システムを使った衝撃弾性波法により、トンネル・橋梁等のコンクリート構造物の「うき・剥離」など欠損部の有無および深さをリアルタイムに検出することが可能(検査結果の定量化) ・オプションにて、損傷位置に自動スプレーマーキングする機能を付加することが可能
イメージ	 